

日本沿岸域学会 平成 26 年度全国大会（静岡）  
現地視察『世界遺産富士山と共に生きる沿岸域を考える』

昨年、三保松原は、世界文化遺産「富士山—信仰の対象と芸術の源泉」の構成遺産のひとつとして登録されました。構成資産のコアゾーンである羽衣公園付近から真崎までの清水海岸（砂浜及び松林）、御穂神社境内全域と「神の道」、清水灯台（三保灯台）などで構成され、資産面積：64.4ha、緩衝地帯面積：252.0ha が指定されています。

しかし、登録後の観光交流人口の急激な増加に伴い、三保松原の自然環境保全と観光振興のバランス、海岸保全や松林の保全管理・景観改善の課題があり、その解決が急がれております。この度の視察では、三保松原、日本平にて富士山と清水港の景観、国宝久能山東照宮を拝観します。

【参加費】 3,000 円（バス代、ロープウエー、久能山東照宮拝観+東照宮博物館 含む）

【行程（予定）】

12:00 シンポジウム終了

13:00 大学出発

13:15 富士山世界遺産構成資産三保松原視察

松原・海岸の保全、眺望ポイントの確保その現状と課題、今後の対策等の説明

14:30 三保松原出発

日本平 久能山東照宮ロープウエー 久能山東照宮拝観+東照宮博物館

16:30

17:00 頃 JR 静岡駅

